

Cisco Cloud APIC サイトのインフラの設定

- ・クラウドサイト接続性情報の更新(1ページ)
- ・インフラの設定: クラウド サイトの設定 (2ページ)

クラウドサイト接続性情報の更新

CSRやリージョンの追加や削除などのインフラストラクチャの変更には、Multi-Siteファブリック接続サイトの更新が必要です。このセクションでは、各サイトの APIC から直接最新の接続 性情報を取得する方法を説明します。

手順

- ステップ1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。
- ステップ2 [メインメニュー (Main menu)] で、[インフラストラクチャ (Infrastructure)] > [インフラの設定 (Infra Configuration)]を選択します。
- ステップ3 右上にある [インフラの構成 (Infra Configuration)] ビューで、[インフラの設定 (Configure Infra)] ボタンを クリックします。
- ステップ4 左側のペインの [サイト (Sites)] の下で、特定のサイトを選択します。
- ステップ5 メインウィンドウで[更新 (Refresh)] ボタンをクリックして、新規または変更されたCSRおよびリージョン を検出します。
- ステップ6 最後に、[はい (Yes)] をクリックして確認し、接続情報をロードします。

これにより、新規または削除された CSR およびリージョンが検出されます。

ステップ7 [導入 (Deploy)] をクリックして、クラウドサイトの変更を、接続している他のサイトに伝達します。

クラウドサイトの接続を更新し、CSR またはリージョンが追加または削除された後、インフラ設定を展開 して、そのクラウドサイトへのアンダーレイ接続がある他のサイトが更新された設定を取得する必要があ ります。

インフラの設定: クラウドサイトの設定

ここでは、クラウド APIC サイトにサイト固有のインフラ設定を構成する方法について説明します。

手順

- ステップ1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。
- ステップ2 [メインメニュー (Main menu)] で、[インフラストラクチャ (Infrastructure)] > [インフラの設定 (Infra Configuration)]を選択します。
- ステップ3 メインペインの右上にある [インフラの設定 (Configure Infra)] をクリックします。
- ステップ4 左側のペインの [サイト (Sites)] の下で、特定のクラウド サイトを選択します。
- ステップ5 [サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] 情報を入力します。

[オーバーレイ設定 (Overlay Configuration)] を入力します。

- a) 右側の [<Site> 設定 (Settings)] ペインで、[サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] タブを選択します。
- b) [オーバーレイ設定 (Overlay Configuration)] 領域で、[Multi-Site] ノブを有効にします。 これは、オーバーレイ接続がこのサイトと他のサイト間で確立されるかどうかを定義します。
- c) (オプション) [BGP パスワード (BGP Password)] を指定します。

[サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] 情報を入力します。

- a) [アンダーレイ設定 (Underlay Configuration)] 領域で、[接続の追加 (Add Connectivity)] をクリックしま す。
- b) [サイト (Site)] ドロップダウンから、接続を確立するサイトを選択します。

c) .[接続タイプ (Connection Type)] ドロップダウンから、サイト間の接続のタイプを選択します。 次のオプションを使用できます。

• [パブリックインターネット (Public Internet)]:2つのサイト間の接続は、インターネットを介して 確立されます。

このタイプは、任意の2つのクラウドサイト間、またはクラウドサイトとオンプレミスサイト間 でサポートされます。

• [プライベート接続 (Private Connection)]:2つのサイト間のプライベート接続を使用して接続が確 立されます。

このタイプは、クラウド サイトとオンプレミス サイトの間でサポートされます。

・[クラウドバックボーン (Cloud Backbone)]:クラウドバックボーンを使用して接続が確立されます。

このタイプは、Azure-to-AzureやAWS-to-AWSなど、同じタイプの2つのクラウドサイト間でサポートされます。

複数のタイプのサイト(オンプレミス、AWS、Azure)がある場合、サイトの異なるペアは異なる接続 タイプを使用できます。

d) (オプション) [IPsec] を有効にします。

次のオプションを使用できます。

- ・パブリック インターネット接続の場合、IPsec は常に有効です。
- ・クラウドバックボーン接続の場合、IPsecは常に無効です。
- プライベート接続の場合、IPsec は有効または無効にすることができます。
- e) IPsec を有効にする場合は、IKE バージョンを選択します。

IP Security (IPSec) プロトコル確立のためのインターネットキー エクスチェンジ (IKE) 構成に応じて、使用するプロトコルのバージョンとして IKEv1 (バージョン 1) または IKEv2 (バージョン 1) を選択できます。

f) [保存 (Save)] をクリックして、サイト間接続構成を保存します。

site1 から site2 への接続情報を保存すると、site2 から site1 へのリバース接続が自動的に作成され ます。これは、他のサイトを選択し、[アンダーレイ設定 (Underlay Configuration)] タブを選択するこ とで確認できます。

g) 他のサイトのサイト間接続を追加するには、この手順を繰り返します。

site1からsite2へのアンダーレイ接続を確立すると、リバース接続が自動的に行われます。

ただし、site1からsite3へのサイト間接続も確立する場合は、そのサイトに対してもこの手順を繰り 返す必要があります。

ステップ6 [外部接続 (External Connectivity)] 情報を入力します。

NDOによって管理されていない外部サイトまたはデバイスへの接続を設定する予定がない場合は、この手順をスキップできます。そうでなければ、次の情報を入力します。

- a) 右側の [<Site> 設定 (Settings)] ペインで、[外部接続 (External Connectivity)] タブを選択します。
- b) [外部接続の追加 (Add External Connectivity)] をクリックします。

[外部接続の追加 (Add External Connectivity)] ダイアログが開きます。

c) [VRF] ドロップダウンから、外部接続に使用する VRF を選択します。

これは、クラウドルートをリークするために使用される VRF です。[リージョン (Regions)] セクションには、この設定を適用する CSR を含むクラウド リージョンが表示されます。

d) [外部デバイス (External Devices)] セクションの [名前 (Name)] ドロップダウンから、外部デバイスを選択します。

これは、一般的なインフラストラクチャ設定時に[一般設定(General Settings)]>[外部デバイス(External Devices)]リストに追加した外部デバイスであり、インフラの設定:一般設定の説明に従ってすでに定義 されている必要があります。

- e) [トンネル IKE バージョン (Tunnel IKE Version)] ドロップダウンから、クラウド サイトの CSR と外部 デバイス間の IPSec トンネルの確立に使用する IKE バージョンを選択します。
- f) (任意) [トンネルサブネット プール (Tunnel Subnet Pool)] ドロップダウンから、名前付きサブネット プールのいずれかを選択します。

名前付きサブネットプールは、クラウドサイトの CSR と外部デバイス間の IPSec トンネルに IP アドレスを割り当てるために使用されます。ここで名前付きサブネットプールを指定しない場合、外部サブネットプールが IP 割り当てに使用されます。

外部デバイス接続用の専用サブネットプールを提供することは、特定のサブネットがすでに外部ルー タに IP アドレスを割り当てるために使用されており、それらのサブネットを NDO およびクラウド サ イトのIPSecトンネルに引き続き使用する場合に役立ちます。

この接続に特定のサブネットプールを提供する場合は、インフラの設定:一般設定の説明に従って作成 済みである必要があります。

- g) (オプション)[事前共有キー (Pre-Shared Key)] フィールドに、トンネルの確立に使用するカスタム キーを入力します。
- h) 必要に応じて、同じ外部接続(同じVRF)に対して追加する外部デバイスについて、前のサブステップを繰り返します。
- i) 必要に応じて、追加の外部接続(異なる VRF)に対してこの手順を繰り返します。

CSR と外部デバイス間のトンネルエンドポイントには1対1の関係があるため、異なる VRF を使用して追加の外部接続を作成できますが、同じ外部デバイスに追加の接続を作成することはできません。

次のタスク

必要なサイト間接続情報をすべて設定しましたが、まだサイトにプッシュされていません。インフラ設定の展開の説明に従って、設定を展開する必要があります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては 、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている 場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容につい ては米国サイトのドキュメントを参照ください。